Call 公募	HORIZON-CL3-2026-01-DRS-04
Project	**Open topic on driving innovation uptake of disaster risk solutions** HORIZON-CL3-2026-01-DRS-04
Topic description トピックの説明	期待される成果： 本プロジェクトの成果は、以下の期待される成果の**一部またはすべて**に寄与することが期待される： ● 多様な分野において、TRL（技術成熟度レベル）の高い災害リスク対策ソリューションの導入を加速させること； ● 既存の防災、防災準備、災害対応、および復旧の枠組みへの革新的な技術の導入を促進した； ● ステークホルダー間の連携を促進し、実証済みの解決策を拡大するとともに、レジリエンスを強化した； ● 導入上の障壁に対処し、先進的な DRS 技術のアクセシビリティとユーザビリティを確保した； ● 実環境における高 TRL ソリューションの実証と検証を通じて、エビデンスに基づく意思決定を強化すること； ● 市民の安全に関する研究成果の認知度向上を図った。 スコープ： 本トピックは、高い TRL（技術成熟度レベル）を有する災害リスク対策（DRS）の多分野にわたる普及と統合を促進し、気候変動を含む様々な災害に対する社会のレジリエンスを強化することを目的としている。導入の障壁を克服し、アクセシビリティを確保し、ステークホルダー間の連携を強化することで、イノベーションの普及を促進することに重点が置かれている。各プロジェクトは、災害リスク管理に携わる官民の組織による高 TRL ソリューションの導入を促進するとともに、革新的な災害リスク管理（DRS）技術がエンドユーザーに効率的に届くよう、その普及拡大と商用化に向けた戦略を策定すべきである。また、多災害および連鎖的リスクシナリオにおける防災・対応・復旧のための、セクターやレベルを横断した統合的なガバナンスおよび調整モデルを策定し、新たなソリューションを各国および欧州の市民保護システムに統合するための相互運用性基準やガイドラインを策定することで、これらの技術が既存の防災・対応・復旧の枠組みをどのように補完または代替し得るかを示すべきである。本プロジェクトは、とりわけ他の災害レジリエンス・プロジェクトと連携・支援を行い、それらの普及を促進するとともに、欧州連合市民保護メカニズム（UCPM）の「予防・防災のための知識活用（KAPP）」資金提供公募など、他の防災準備助成金との相乗効果を生み出す方法を検討すべきである。 導入の障壁に対処することは極めて重要であり、これには、先進的なソリューションの普及を妨げる技術的、規制的、財政的、社会的障害を特定し、それらを軽減するとともに、緊急対応要員、地方自治体、地域社会、および脆弱な状況にある個人など、多様なステークホルダーにとってのアクセシビリティと使いやすさを確保することが含まれる。また、各プロジェクトは、大規模なパイロット事業や実証実験を通じて、TRL レベルの高いソリューションの実用的な有効性を実証し、データに基づく意思決定を裏付け、災害リスク軽減戦略を最適化するための確固たる根拠を提示すべきである。各取り組みは、UCPM[1]の能力格差を考慮し、EU の災害レジリエンス目標と整合させ、既存のプログラムを基盤として、関連する政策、資金調達メカニズム、技術エコシステムとの相乗効果を確保すべきである。「防災連合戦略」の官民連携に関する章は、とりわけ指針となる文書であるべきである。災害への備えと対応を強化するため、デジタルツール、AI を活用した分析、「Destination Earth」のようなデジタルツイン、IoT アプリケーション、その他の新興技術を組み込んだ提案が推奨される。 提案書には、欧州の市民安全研究の可能性を示すため、プロジェクトおよびその成果を一般市

	民（政界、民間部門、市民）に広く周知するための戦略を盛り込む必要がある。その一例として、欧州市民保護フォーラムや欧州委員会災害リスク管理ナレッジセンターのプラットフォームなどが挙げられる。 このトピックにおいて、研究およびイノベーションの内容へのジェンダーの視点（性別およびジェンダー分析）の組み込みについては、その研究活動の目的と関連がある場合に限り、検討すべきである。 技術成熟度レベル - 完了したプロジェクトに期待される技術成熟度レベル 本プロジェクトの終了までに、各活動において TRL 8 の達成が見込まれている（一般付属書 B を参照）。 [1] eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/TXT/PDF/?uri=CELEX:52025DC0286